

学力向上プロジェクト授業改善 平成16年度実践事例

種 目 (ソフトボール)

事例の解説

1 研究の趣旨

本事例では、ソフトボールの授業を実施するにあたり、事前に観点別評価規準を示すことで生徒自らが学習内容を把握し、主体的に活動を行う「見通しをもった学習活動」が可能となるように学習環境を設定した。これにより生徒が現在のレベルを理解し、各観点の到達目標を目指して取り組む過程で、運動の楽しさや喜びを多く味わうことができる授業を目指した。

2 研究の進め方

運動の楽しさや達成する喜びを味わうためには運動技能の向上を目指すだけでなく、その他の観点についても到達目標を理解して取り組むことが大切である点を示し、目標達成に向けた主体的な活動が行われるよう支援した。

- (1) 単元計画の検討と観点別評価規準の作成
- (2) 生徒用学習カードの作成
- (3) 活動内容と観点別評価規準の説明
- (4) 生徒は3～4時間ごとに自己評価を実施
- (5) 指導者は毎時間ごとに生徒の行動を観察し、顕著な事由について授業終了後に記帳
- (6) 生徒と指導者の間で著しい評価の差が生じた場合は、コミュニケーションを図り指導に活用

3 研究の成果

- (1) 観点別評価規準を事前に示すことが生徒の学習活動を明確にし、わかりやすい授業となった。
- (2) 技能面では不得手な生徒も他の観点を意識することで、自発的に活動する姿が見られた。
- (3) 生徒と指導者との評価の差が話し合いを生む機会となり、それが指導と評価の一体化の手がかりとなった。
- (4) 生徒自身も自らの取組や学習活動を見直す機会となった。
- (5) 評価に関する一連の取組が、評価の透明性と公平性の確立につながった。

単元の評価規準

単元名：ソフトボール(18時間) 対象学年：第3学年				
単元の目標				
(1) ソフトボールに関心をもち、仲間と協力して練習や試合が楽しくできる。また、公正な態度や安全に留意して練習しようとする。 (2) それぞれの段階に応じた課題を基本練習やゲームの中から見つけ、個人やチームの課題を解決しようとする。 (3) ソフトボールの基本的な技能を身につけようとする。また、段階に応じた作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。 (4) ソフトボールの基本的な技能を高めるための効果的な練習を理解している。また、試合を運営するためのルールや審判法が理解できる。				
	関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
単元の評価規準	ソフトボールの特性に関心をもち、仲間と協力して練習や試合が楽しくできる。また、公正な態度や安全に留意して行おうとする。	それぞれの段階に応じた課題を基本練習やゲームの中から見つけ、個人やチームの課題を解決しようとする。	特性に応じた基本的な技能を身につけようとする。また、段階に応じた作戦を生かした攻防を展開してゲームができる。	特性に応じた基本的な技能を高めるための効果的な練習を理解している。また、試合を運営するためのルールや審判法が理解できる。
具体の評価規準	仲間と安全に能率よく練習ができる。仲間の失敗を許したり、良いプレーをほめたりできる。個人の役割を果たし協力して練習に取り組める。ルールや約束を守り練習や試合ができる。	練習や試合を能率良く行うための準備や後片付けを選んだり、見つけたりできる。練習や試合の中からチームや個人の課題を見つけようとする。基本練習やゲームの中から見つけた課題を解決しようとする。技能の段階に応じて	目標に向かってスローイングしたり、キャッチングしたりバットにボールを当てることができる。状況に応じた守備や攻撃ができる。技能の段階に応じた練習ができる。技能の段階に応じた作戦を立てゲームが	この単元で行われる学習内容の流れを書き出ししたりしている。キャッチング、スローイング、ベースランニング、バッティングなど基本的構成について言ったりしている。練習の方法の具体

練習や試合が楽しくできる。	作戦を立てている。段階に応じた練習やゲームの中から仕方や、新しい課題を見つけようとしている。	できる。	例を挙げている。ルールや審判の方法を言ったり書き出したりしている。試合の運営方法について理解できる。
---------------	--	------	--

単元計画

時間	主な学習活動	学習活動における具体的評価規準			
		関心・意欲・態度	思考・判断	運動の技能	知識・理解
導入 1	オリエンテーションとチーム編成 ・学習のねらいや流れを理解する。 ・単元や1単位時間の流れや学習の進め方を理解し学習の見通しをもつ。 ・チームを編成し役割分担をする。				この単元で行われる学習内容の流れを書き出したりしている。
基本練習 3	チームごとの基本練習 ・キャッチボール ・トスバッティング ・バットスイング ・ベースランニング ・シートノック ・フリーバッティング	仲間と安全に能率よく練習ができる。	練習や試合を能率良く行うための準備や後片付けを選んだり、見つけたりできる。	目標に向かってスローイングしたり、キャッチングしたりバットにボールを当てることができる。	キャッチング、スローイング、ベースランニング、バッティングなど基本的構成について言ったりしている。
試合 6	練習で身につけた技能をゲームに生かす。	仲間の失敗を許したり、良いプレーをほめたりできる。	練習や試合の中からチームや個人の課題を見つけようとする。	状況に応じた守備や攻撃ができる。	
課題練習 1	試合の結果から、個人やチームの課題を見つけ練習に生かす。	個人の役割を果たし協力して練習に取り組める。	基本練習やゲームの中から見つけた課題を解決しようとする。	技能の段階に応じた練習ができる。	練習の方法の具体例を挙げている。
試合 6	対戦チームに応じた作戦を立ててゲームを行う。	ルールや約束を守り練習や試合ができる。 練習や試合が楽しくできる。	技能の段階に応じて作戦を立てている。 段階に応じた練習やゲームの中から仕方や、新しい課題を見つけようとしている。	技能の段階に応じた作戦を立てゲームができる。	ルールや審判の方法を言ったり書き出したりしている。
まとめ 1	練習や試合の結果から、自分や仲間の成果について振り返る。				試合の運営方法について理解できる。
評価方法等		行動観察 自己評価	行動観察 自己評価	行動観察 自己評価 個人記録	行動観察 自己評価 評価問題

学習指導案

単元名：ソフトボール 本時の位置：4 / 1 8 時間
本時の目標
(1) 仲間と協力して互いに教え合ったりしながら楽しく練習をすることができる。 活動場所や用具などの安全を確かめながら練習を行うことができる。
(2) 基本練習の中から個人の課題を見つけだすことができる。

(3) 守備練習ではキャッチング、スローイングの技術を身につけ試合ができるようになる。 攻撃練習ではバッティングの技術を身につけ試合ができるようになる。			
(4) 練習を通して、試合の進め方や、ルールを理解する。			
時間	学習内容	学習活動	学習活動の支援と評価
導入 10分	準備運動 補強運動 本時の予定確認 準備	準備運動と補強運動を行う。 ・ストレッチング ・ベースランニング 本時の内容・ねらいを確認する。 Bチームが担当する。	準備運動と補強運動は同一内容とする。 ・走路、身体の傾斜、腕の振りなどを強調する。 練習の意義、内容、要点について十分理解できるよう説明する。 安全に注意し能率良くできるよう支援する。
展開 35分	守備練習	キャッチボールを行う。 ・ゴロの捕球と送球 ・フライの捕球と送球 各ポジションについてシートノックを受ける。 ・内野は、すべて一塁へ送球する。 ・外野は、すべて二塁へ送球する。	ペアとの距離、方向、場所、回数、隊形、要領等を説明し、次の助言をする。 ・ボールをよく見て、正面に入る。 ・打球の強さ、放物線から落下地点を予想して素早く落下地点に入る。 次のポイントを助言する。 ・ノックを受ける者は、声を出すとか、手を上げるなどしてノッカーに目標を示す。 ・ノッカーは、なるべく野手が捕球しやすい打球を打つ。
	攻撃練習	トスバッティング ・3塁線からレフト線の間均等に4箇所ベースを置き、1グループ6人程度に分かれる。 ・1人10球ずつ打ち、バッター、ピッチャー、守備を交代しながら進めていく。 トスバッティング ・防球ネットの前に立ち、ペアからトスされたボールを打ち返す。 ・防球ネットから3mの位置にバッターボックスとベースを置き2m真横からペアの一人がベース上にトスを10回送る。 これを交替して行う。 フリーバッティング ・Aチームから行う。打順の1番から一人10球ずつ打ち、終わったら守備位置に着く。 これを繰り返す。 Bチームは全員定位置に着き守備を行う。 Aチームが終わったら交替して行う。	次のポイントを助言する。 ・打者は、バットを振りきらないでミートし、ピッチャーに打ち返す。 ・守備者は打球に対して、素早く反応して正面に入り処理する。 ・慣れてきたらピッチャーは内外角に投げ分ける。バッターは外角は右方向に、内角は左方向に打ち分ける。 ・トスをする者はバッターの打ちやすいタイミングで送るよう心がける。 ・バットの出方や持ち方、スタンス、ボールをよく見る。 用具の放置や危険なプレーがないよう、練習場所を回りながら活動状況を把握する。 ピッチャーは打ちやすい球を投球するよう助言する。 【関心・意欲・態度の評価】(行動観察) ・仲間と安全に能率よく練習ができる。 【運動技能の評価】(行動観察) ・送球・捕球・打撃・走塁の基本的な技能を身に付けている。
整理 5分	整理運動 反省 後片づけ	チーム毎でストレッチ等を行う。 本時の練習から、試合にむけて、新たな課題を明らかにする。 後片づけを行う。	使用部位を入念に行うよう助言する。 練習の中で発見した課題を説明する。 ナイスプレー、グットボーイについて全体の前で発表し、チームの高まりや個人の伸びについて認める。 安全に注意し能率良く行うよう支援する。